◎特集2

地域防災の主役はあなた！

″ふるさとを守る″を今考えよう

消防署と消防団は、ともに「消防組織法」に基づく組織として、地域住民の生命、身体、財産を守るための活動を行っています。職員として「常備消防」を担い、火災、救急、救助などに365日24時間体制で備える消防署員に対し、日常は別の職業に就きながら、災害などが発生した際にいち早く出動する「非常備消防」の担い手、それが消防団員です。

消防団の原動力は、ふるさとを自分たちの手で守るという「郷土愛」で、その活動は、互助やボランティアの精神に支えられています。地元の事情に明るい団員の存在こそが、地域防災の要。平成18年7月豪雨災害発生時の命がけの活躍は、いまだ記憶に新しいところです。

一方、現在の岡谷消防署は「諏訪広域消防」という諏訪6市町村の連合組織で運営されていますが、平成24年度を目標に、さらなる消防広域化(東北信ブロックと中南信ブロックの2つに統合)が検討されています。地元住民の信頼を集める消防団の役割は、ますます重要になるでしょう。

しかし、社会構造の変化から、近年では消防団員が減少し、全国的に問題となっています。岡谷市も例外ではありません。今こそ、地域のくらしと安全に関心を持ち、消防団活動に対する理解と協力を深める時ではないでしょうか。わたしたち一人ひとりの意識と行動に、ふるさとの未来がかかっています。

消太

わたしたちにできることって…？ 現役消防人への12の質問

消防署職員の中村さん、消防団の鮎澤さん、濱さんにお答えいただきました。

Q1 消防職員・消防団員になったきっかけは？

中村さん 高校時代に、北海道奥尻の地震や雲仙普賢岳噴火などの災害をテレビで見て、地域に貢献できる仕事がしたいと思いました。

鮎澤さん 断れなくて渋々…というのが正直なところです。はっぴの集団に抵抗があり、東京から戻ってきた時には「消防だけはやりたくない」っと思っていましたから。

濱さん 消防ラッパが吹きたい一心で！…後のことは何も考えてなかったです。

諏訪広域消防岡谷消防署
消防士長
中村 利雄さん

Q2 入署、入団後の印象は？

中村さん 現場のイメージが強かったので、実際は防災活動などが多く〝思ったより地味だなあ！〟と(笑)。驚いたのは、事務処理の膨大さで、それには今でも苦戦しています。

鮎澤さん やる気のなさから、しばらくは逃げ腰でいましたが、いやいやでも消火や捜索に参加するうちに、消防団の必要性に気づき、意識が前向きになりました。

濱さん 全く知らない世界だったので、入ってから見たこと、経験したことがすべて発見でした。女性団員への期待が大きく、防災や救護などの分野で、必要とされていると感じました。

岡谷市消防団本部部長・
岡谷市消防活動活性化研究委員会委員長
鮎澤 貴秀さん
作曲家・MIDI検定講師
株式会社ジェム・インパクト所属

Q3 魅力は？

中村さん 感謝されることが多く、心のこもった言葉に励まされます。人のためになったのかなと思えることが一番大きいですね。

鮎澤さん ひとつのことにみんなで取り組んだ時の達成感。そして、そういう思いを共有したことから、深い友だち付き合いができるところです。

濱さん 普段の生活では知り合えない人に会えること。人脈の広がりは財産です。人生の先輩がいっぱいで、消防以外のこともいろいろ勉強になって楽しいです。

Q4 消防活動で心に残る現場は？

中村さん 火災にしても救急にしても、呼ぶ側の人にとっては、一生に一度あるかどうかの一大事。出動する側も、一刻を争う事態や命に関わる場面に立ち会うので、マックスの真剣さで臨むわけです。ですからどんな現場も、ずいぶん前のことも、不思議なくらい覚えていますね。

鮎澤さん 豪雨災害は、いまだかつて経験したことのない大災害でしたけど、現場の思い出は、大きさに関係なくて、山火事の時、山のなかで徹夜したりとか…小さなことでも印象に残っています。

濱さん 火事だけじゃなくて、捜索もそうですけど、人の無事が、早々に確認された時、本当にほっとします。

Q5 大変だなと感じる時はどんな時？

中村さん 署員は交代勤務ですが、休日でも何かあればすぐに…と24時間、緊張感を維持して生活することでしょうか。

鮎澤さん 消防団に限ってのこと

岡谷市消防団第10分団班長
濱　由香さん
介護福祉士
医療法人研成会湖畔病院白寿荘勤務

とではないんですが、役を引き受けると、どうしても会合が多くなりますね。

濱さん　仕事の疲れがたまっている時の早朝訓練は、正直ちょっときついです。早起きしてもすぐに体が動かないし、身支度やお化粧に時間もかかるので、さらに早起きしないと間に合わなくて…。

Q6 消防人でよかったと思うのは？

中村さん　家族にとって頼もしい存在でいられることが、自分にとっての支えというか張り合いにもなります。

鮎澤さん　地域の人とのつながりができること。子どもの保育園や学校の行事など、親同士が顔を合わせる場面でも、知り合いが多いので心強く助かります。

濱さん　大好きなラッパの吹奏ができる時。とくに楽しいのが、お祭りです。来年は、おんばしら！…とても楽しみですね。

Q7 日ごろ心がけていることは？

中村さん　体力の維持と健康管理、あとは家にいても即対応できるようにと、心の準備も、ですかね。

鮎澤さん　火の用心！です。消防団員の家から火を出すわけにはいきませんから、注意深くなりました。

濱さん　わたしもです。消防団員の家は、市民の住宅に先がけて、ということで、昨年、住宅用火災警報器を設置しました。早期避難や初期消火につながる住宅用火災警報器、市民のみなさんも早めにつけてくださいね。

ラッパも得意なんです、鮎澤さん

登録有形文化財、また近代化産業遺産でもある岡谷消防署・岡谷市消防団本部。古い建物を大切に管理しながら活用している

Q8 消防活動に対する家族の反応は？

中村さん　消防士という仕事がわかっている妻は、帰ればほっとした顔はするかなくらいで、言葉に出して何かいうことはないです。ただ、子どもがこわがって「行かないで」などというので、ちょっと困ったな、と。時期的なものだと思いますけれど。

鮎澤さん　消防団の大事さがよくわかってるみたいです。協力的というか、サイレンの音に家族の方が敏感になって「早く行かないと！」なんて急かされます。

濱さん　「消防団でラッパが吹きたい」といったら、どんな反応をされるか不安だったので、家族には事後報告で…。それでもうれしいことに、朝は起こしてくれますし、いろいろ助けてもらっています。

Q9 消防活動を通して自分が変わったと思うことは？

中村さん　高校を出て消防士になったので、人間としては消防に育ててもらったと思っています。生死と向き合うこと、命の大切さを考えること、これからも多くを学び、成長していきたいと思います。

鮎澤さん　活動にきちんと取り組むようになってからは、とにかくポジティブになりました。やりくりすれば時間は作れるので、忙しくてできないとか、まったく考えないですね。何をやるのも本人の気持ち次第、それを実感しました。

濱さん　人脈が広がり、世界が広がり、行動範囲も広がって。これからの人生の大きな財産になっていると思います。

操法訓練がバッチリ決まっています、濱さん

Q10 消防職員、消防団員の使命とは？

中村さん　「住民の生命、身体、財産を守る」というのが大前提ですが、自分に課せられた使命となると、はっきりこれだと、まだ言えないかもしれないです。それを追求しながらこの仕事をまっとうし、辞めるときに自分なりの答が見つけられればいいかなと思います。

はしご車にも負けない頼もしさの中村さん

鮎澤さん　地域を守るという活動のなかで、気づくことができたこと、それは、地域に生かされているんだなあ、という「感謝の心」でした。わたしは消防でそれに気づくことができたので、そのことを一般の人にも伝えていきたいです。

濱さん　わたし自身は、女性として、消防団員として、防災の守備範囲を広く、また細やかな心配りで活動していくことが目標です。

Q11 同僚や仲間との付き合いは？

中村さん　考えてみると、人生の1／3は同僚と一緒に過ごしていることになります。寝食を共にし、現場では命を預け合う関係ですから、親密さはほとんど家族の域ですね。

鮎澤さん　強いつながりができ、深くつきあえる仲間が増えます。

濱さん　みんなで遊びに行ったり、仲良くなれます。

Q12 市民のみなさんに伝えたいことは？

中村さん　出動の際に道を譲ってくださったり、消防活動への協力に心から感謝しています。災害に対しては、避難場所の確認や防災グッズ、住宅用火災警報器もそうですが、自分でできる〝備え〟をしっかりしておきましょう。

鮎澤さん　消防団に入ってみてください。いやいやでもやってみると楽しいです、これ体験談ですから。消防に対する意識、大切さは、たとえ消防団を引退しても持ち続けていきたいし、若い人にそうした思いを引き継いで欲しいと思います。

濱さん　集団でいるとはっぴが目立つせいでしょうか、消防団員は飲んでばかり…みたいなイメージを持たれてしまうのですが、実際には地道に大切な活動をしていることを知って欲しいです。楽しいので、ぜひ一緒にやりましょう。

ラジオで防災意識向上を促す諏訪地域女性団員のみなさん

問合せ●岡谷消防署 ☎22-0119

Yes, we can!

消防団員募集

わたしたちと一緒に！

春の異動シーズンを迎え、ふるさとに帰ってくる社会人のみなさん、新たに岡谷に赴任されるみなさん、消防団は地域に溶け込む入口です。仲間作り、地域貢献、健康増進と、いろいろなメリットもあります。最近は、女性団員も増加し、幅広い防災活動を展開しています。

自分たちのまちを自分たちの手で守る消防団に、新しい守り手として参加しませんか？　地域防災の向上に力を尽くし、大切な人、愛するまちを一緒に守りましょう。